

福祉用具を使っとうまくいったこと

利用者さんの状況 (疾患名や 生活スタイル等)	福祉用具 (何を、 どう導入した)	結果	ポイント (どういう点を見て、 どう導入するとうまくいくのか)
パーキンソン病。自宅内を一人で歩くが、徐々に転倒が増えてきた。歩行は前屈・小刻み。	車輪付歩行器。福祉用具業者とセラピストでデモした後、レンタルへ。	自宅内歩行時に歩行器を使うようになり、歩行安定性が向上。転倒回数が減少。	パーキンソン病の進行具合を確認し、歩行能力低下に合わせて導入した。デモ時にセラピストも同行し、業者と握りの高さ等を設定した。バリアフリー住宅で段差がない家に住んでいた。
整形疾患の方。人工関節、手の変形や痛みがある。買い物がしたいとの希望がある。	外出用の歩行器 (かご付き、折りたたみできるタイプの物)	一人で買い物に行けるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ご本人の希望に沿って福祉用具を検討する。この事例の場合は「買い物がしたい」との希望があり、それに合わせて選択した。</li> <li>●ご本人の体格や目的にあう歩行器を選択する。(ブレーキの形や車輪の大きさ、高、幅、デザインなど。)</li> <li>●実際に試してから使う物を決める。何種類かデモ品を業者さんに持ってきてもらい、使い勝手を比べて一番適しているものをレンタルする。</li> </ul>
【検討中の事例】 脳幹由来の失調症状を呈している方。介助歩行で何とか歩けるレベル。御本人から、「トイレで排泄したい。」という希望があり、家屋調整・福祉用具を検討中。	検討中 手すりが前方にあると起立がしやすいと思われる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>●手すりは一度とりつけると変更や修正が大掛かりになるので、取り付けの前にタッチアップやベストポジションバーを試し、手すりの適した位置を確認すると失敗しにくい。</li> <li>●もう少し機能アップ出来ないかを見ていく。</li> </ul>
重度の変形性股関節症があり、ソファに横になる時足を持ち上げてもらう必要があった。	発砲スチロールのブロックでソファの補高を試した。	御自分でのソファの寝起きができるようになった。その後、ブロックでの高さを参考にして鉄板と木材で業者に補高してもらった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事前に安価に試してからソファの改修をお願いした。</li> <li>●発砲スチロールの強度の範囲内で使用し、滑らないように滑り止めマットを利用すると安全に試すことができる。</li> </ul>

福祉用具を使ってうまくいったこと

利用者さんの状況 (疾患名や 生活スタイル等)	福祉用具 (何を、 どう導入した)	結果	ポイント (どういう点を見て、 どう導入するとうまくいくのか)
60代で体格の良い女性。両大腿切断。以前は入浴によりストレス解消していた。現在はシャワー浴のみで、ご本人は入浴を諦めていた。	バスリフトをご提案。セラピストと業者さん同席でデモ導入、入浴方法をThが指導。	ご本人は「便利で良いかも」と。家族や訪問介護も協力的であり、2週間のデモ後、導入が決定。ゆっくり入浴できるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セラピストの指導があり、スムーズに導入できた</li> <li>・ ご本人にリモコンを操作してもらい、不安少なく動作を行えた</li> <li>・ シャワーキャリーとリフト座面の高さが同じであり、移乗しやすかった</li> </ul>
高齢女性。寝たきりで離床には抵抗。訪リハは2回/週。なんとか移乗、離床できるようにとご家族より希望。	リクライニング車椅子をご提案。業者さんとデモを行い、3種類ほど試した。ご家族ともどの車椅子が良いか話し合った。	レンタルすることとなる。離床して車椅子で生活する時間が長くなり、活動範囲も拡大した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業者とセラピストの関わりが1度ではなく、たくさんの車椅子を試すことで、納得のいく車椅子を選んでいただけた</li> </ul>
パーキンソン病の女性。夫と2人暮らし。夜のトイレは1時間置きであり、毎回夫を呼んでいた。トイレに近い居間の床で寝たい。	床から立ち上がる昇降椅子を導入。	椅子につかまって立てるようになり、トイレが1人で行けるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーキンソン病であるため、ボタン操作が困難であり、色をつけた</li> </ul>

福祉用具を使っとうまくいったこと

利用者さんの状況 (疾患名や 生活スタイル等)	福祉用具 (何を、 どう導入した)	結果	ポイント (どういう点を見て、 どう導入するとうまくいくのか)
パーキンソン病。自宅内を一人で歩くが、徐々に転倒が増えてきた。歩行は前屈・小刻み。	車輪付歩行器。福祉用具業者とセラピストでデモした後、レンタルへ。	自宅内歩行時に歩行器を使うようになり、歩行安定性が向上。転倒回数が減少。	パーキンソン病の進行具合を確認し、歩行能力低下に合わせて導入した。デモ時にセラピストも同行し、業者と握りの高さ等を設定した。バリアフリー住宅で段差がない家に住んでいた。
末期がんの方で賃貸住宅に住むトイレで立ち上がりにくさを感じている方	賃貸なので手すりをつける事は困難。他の方法を業者に検討	つっぱり棒を導入した事で容易に立ち上がれる様になった。	引っ張りながら立ち上がる方なので掴むところが手前にある方が容易で、業者さんに天井の強度を測定してもらいより安全に導入することができた。
10年以上同じT字杖を使用している方	新しく持ち手が同じ形状をした T 字杖を購入したい	5 社程度問い合わせたところもう販売しておらず、似たような形状の杖を購入することになった。	T 字杖はカラフルな物や、持ち手の形が色々ともバリエーションが豊富なところもある反面、昔取り扱っていた商品がもうないという事もある。定期的カタログを確認しておく必要がある。

福祉用具を使ってうまくいったこと

利用者さんの状況 (疾患名や 生活スタイル等)	福祉用具 (何を、 どう導入した)	結果	ポイント (どういう点を見て、 どう導入するとうまくいくのか)
閉じこもりがちな利用者	外出にむけて歩行器を 導入	外出頻度が増えた	導入前に事前準備(外出できる季節より前から玄 関前の動作練習などを実施)をしたことで目標を意 識できてスムーズに導入できた。
左麻痺、左大腿切断。日 中独居。ブレーキかけ忘 れによる転倒が多かつ た。	起立すると自動でブレーキ がかかる車椅子(ブレーキレ バーは右側のみ)をケアマ ネ、本人、家族と相談し導 入。	転倒が減少。ブレーキ レバーが左右から右の みになったためかけ忘 れも減少。	利用者の問題点に合った車椅子であった(確実に ブレーキがかかる。作業タスクが少なくなる。)
脳外傷。トイレの起立を なんとかしたい。	改修。トイレ内手すり 設置。ペーパーホルダ ーを立位に合わせた 高さへ変更。	介助がしやすくなった。	起立後の動作をしやすい環境にした。
施設入所。パーキンソン 病 stageⅢ、夜間にトイレ 回数多く、疲労、寝不 足。回数を懸念し水分不 足。翌日不調。	夜間のみポータブルを 使用。	トイレ移動が楽になり 疲労減少。寝不足解 消。安心して水分摂 取。翌日の調子も改 善。	関わるスタッフで不調のきっかけを共有し本人とも 改善方法を一緒に考え納得されてから導入。抵抗 なく使用開始できた。



福祉用具を使っとうまくいったこと

利用者さんの状況 (疾患名や 生活スタイル等)	福祉用具 (何を、 どう導入した)	結果	ポイント (どういう点を見て、 どう導入するとうまくいくのか)
<p>パーキンソン病。自宅内を一人で歩くが、徐々に転倒が増えてきた。歩行は前屈・小刻み。</p>	<p>車輪付歩行器。福祉用具業者とセラピストでデモした後に、レンタルへ。</p>	<p>自宅内歩行時に歩行器を使うようになり、歩行安定性が向上。転倒回数が減少。</p>	<p>パーキンソン病の進行具合を確認し、歩行能力低下に合わせて導入した。デモ時にセラピストも同行し、業者と握りの高さ等を設定した。バリアフリー住宅で段差がない家に住んでいた。</p>
<p>大きな疾病既往はなく、歩行自立レベルであったが、足の痛みを繰り返している状況であった。痛みが出現すると歩行不安定となっていた。</p>	<p><b>トイレ</b> 補高便座の購入提案(座面のクッション性も考慮) <b>椅子</b> 日常的には座面の硬い食卓椅子は使用せず、ソファーにて過ごしてもらうよう生活指導</p>	<p>痛みが無くなり、歩行能力も向上。  現在も痛みの出現なく経過している。</p>	<p>痛みの原因を探っていった。 ○生活様式、生活環境の評価。 ○どのような時に一番痛みが出るのか。 (ご家族からの情報) ↓ 長時間のトイレの後に特に歩行状況が悪いことが分かった。また、普段使用している食卓椅子の座面が硬いものであった。 <b>仮説</b>:長時間の座位で、神経圧迫が生じ、痛み・歩行能力の低下につながったのではないかと。</p>

福祉用具を使ってうまくいったこと

利用者さんの状況 (疾患名や 生活スタイル等)	福祉用具 (何を、 どう導入した)	結果	ポイント (どういう点を見て、 どう導入するとうまくいくのか)
パーキンソン病。自宅内を一人で歩くが、徐々に転倒が増えてきた。歩行は前屈・小刻み。	車輪付歩行器。福祉用具業者とセラピストでデモした後に、レンタルへ。	自宅内歩行時に歩行器を使うようになり、歩行安定性が向上。転倒回数が減少。	パーキンソン病の進行具合を確認し、歩行能力低下に合わせて導入した。デモ時にセラピストも同行し、業者と握りの高さ等を設定した。バリアフリー住宅で段差がない家に住んでいた。
脊髄小脳変性症、圧迫骨折、大腿骨頸部骨折	元々が小さい車椅子 →一回り大きい車椅子。体幹サポート。 →100円ショップで滑り止め購入。	体幹まっすぐ。前ずれ少ない。 痛み、かゆみ、不眠あったが活動性向上した。	